

## 生徒指導とは

一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力をたかめることを目指して行われる教育活動（生徒指導提要より）

## 自分から挨拶をしてくれる生徒の心とは

先週から、朝と帰り、校門のところで生徒へのあいさつと登下校の見届けを行っています。

毎朝、元気に登校してくる生徒たちから、元気をもらっている!といった具合です。子どもたちも元気にあいさつをしてくれてとても気持ちがいいです。

あいさつがとてもよい学校はたくさんあります。前任校の瑞浪中もあいさつがとてもよかったです。そんな中で、南中のあいさつって何がいいんだろう?と考えながら先週から立っていて気づいたことがありました。

南中のあいさつのよさって、子供たちが自分からあいさつをすることかな、と分かりました。私が「おはよう」の「お」を言う前に、子どもたちから「おはようございます」とあいさつをしてくれます。中には、かなり離れているのに、私の姿を見るとすぐにあいさつをしてくれる子もたくさんいます。

以前私がこの南中にお世話になっている時に、生活委員長に立候補した子が「先手あいさつ」という公約で活動を行っていたことがあり、そのことを思い出しました。「先手あいさつ」とは自分から進んであいさつをしていくということです。そんな伝統?流れ?が今も継続していることに、感心しました。きっと今の玄関でのボランティアあいさつもそうですし、ひとつひとつの活動の積み重ねが、今の南中の「先手あいさつ」「進んであいさつ」につながっているのかな、と感じました。



私は、あいさつという行為は、「そこにあなたがいる」ということを認めていることを示していると思うのですが、どうでしょうか?単純に生徒からあいさつをされると嬉しい気持ちになります。この私の感じた嬉しさは「思いやり」をかけられたのかもしれない、と思いました。

ところで、学級では、生徒はどんな風にあいさつを捉えているのでしょうか。もし「思いやり」の一つとして捉えているのなら、とても嬉しいことだと思います。

本校の4本柱の一つです。ぜひとも、大切にできるとよいと思います。

全く違う視点ですが、私が気に入っている言葉があります。ドラマ「半沢直樹」(小説なら「銀翼のイカロス」)に出てくるセリフです。半沢が再建しなければならないある航空会社を査察しに行ったシーンです。本当は逆の言い方をしていますが、言い換えるとこんな内容です。

**「成功する会社の従業員は、外部の人へ挨拶する。外部の人へ挨拶するのは、自分の会社や仕事に自信や誇りをもっているからだ。」**

その会社は、半沢のセリフ通り、誇りと自信を忘れなかったのが再建に成功しました。このように今の南中の生徒は、自分たちの学校や活動に自信をもっているのかもしれないですね。

自分の学校に誇りや自信をもって挨拶する、という視点もいいな、と思いました。

皆さんどう思われますか。